

伊 勢 大 橋



(1) 架 橋 前 の 渡 船。

架 設 工 事 概 要

位 置 国道一號線に位し三重縣桑名郡西桑名町より同郡長島村に至る。

沿 革 本橋は帝都と伊勢大廟とを連絡し且つ本縣より愛知縣及び關東地方一帯に通ずる國家的重要路線なるに拘らず木曾、揖斐、長良の三大川には縣營渡船の便あるに過ぎず車馬及重量物資の運搬は全く不可能の状態にあるのみならず洪水又は暴風に際しては全然交通の杜絶を免れず。近時交通量の著しく増加を來し此ま、放置せば地方發展を阻害し引ては國防上に於ても其及ぼす影響甚大なるものあり、故に本橋の架設緊急止むを得ざるの状態にあるを以て茲に其の架橋計畫を樹て國庫の補助を得昭和五年九月起工し昭和九年五月茲に竣

功を告ぐ。

橋 體 橋梁全長1,105米70糎(兩胸壁間)有効幅員7米50糎、橋梁中央に於て下弦材下端より洪水位迄の有効空頭2米50糎を保持しめ、一徑間長72米80糎の鋼製補剛構付繫拱橋(拱矢12米)¹⁵連よりなる。

橋面工 橋床は鐵筋混凝土床版とし其上部は「アスファルトブロック」を以て舗裝せり。

積載荷重 各部材の設計活荷重は二等橋荷重に依る。

橋臺及橋脚 橋臺は扶壁式鐵筋混凝土工にして基礎は末口21糎長4米80糎の内地産赤松丸太を打込みたり、橋脚は幅5米40糎長14米の長方形鐵筋混凝土潛函を干潮面以下平均25米の深度迄沈下せしめ上部に有効天幅

2米10種（コーピングの幅2米40種）兩側面十分の一の勾配を有する小判形の鉄筋混凝土驅體を築造せり。

主要材料 セメント

- 高級セメント 65,827袋(1袋50斤入)
- 普通セメント 77,870袋(同上)
- 鐵筋丸鋼 1,003トン
- 鑄鐵具 185トン
- 鋼材 3,671トン
- 石材 99立米
- 砂利 18,403立米
- 砂 9,202立米
- アスファルトブロック 8,255平米

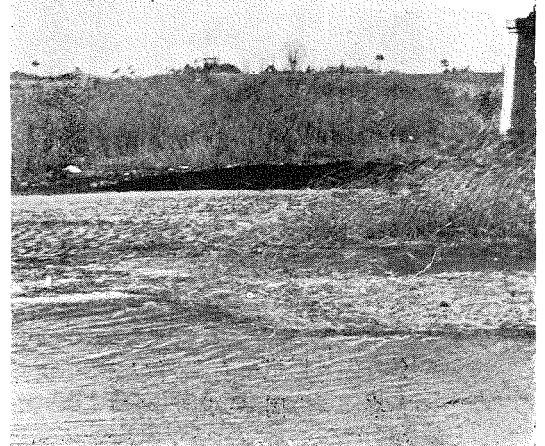
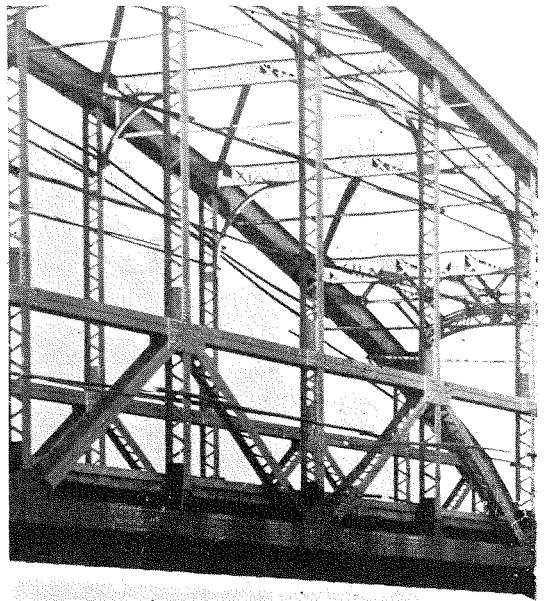
所要工費 總額 1,762,100圓

- 下部工事費 835,400圓
- 上部工事費 926,700圓

- 工期**
- 下部工事 着手 昭和五年九月
 - 竣工 昭和六年八月
 - 上部工事 着手 昭和七年十二月
 - 竣工 昭和九年五月

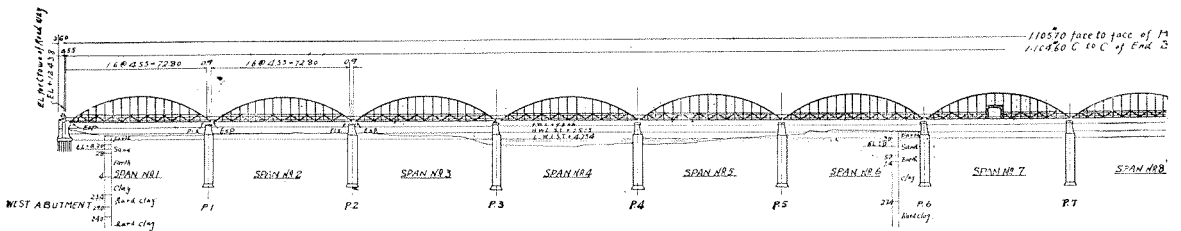
工事關係者 三重縣土木課

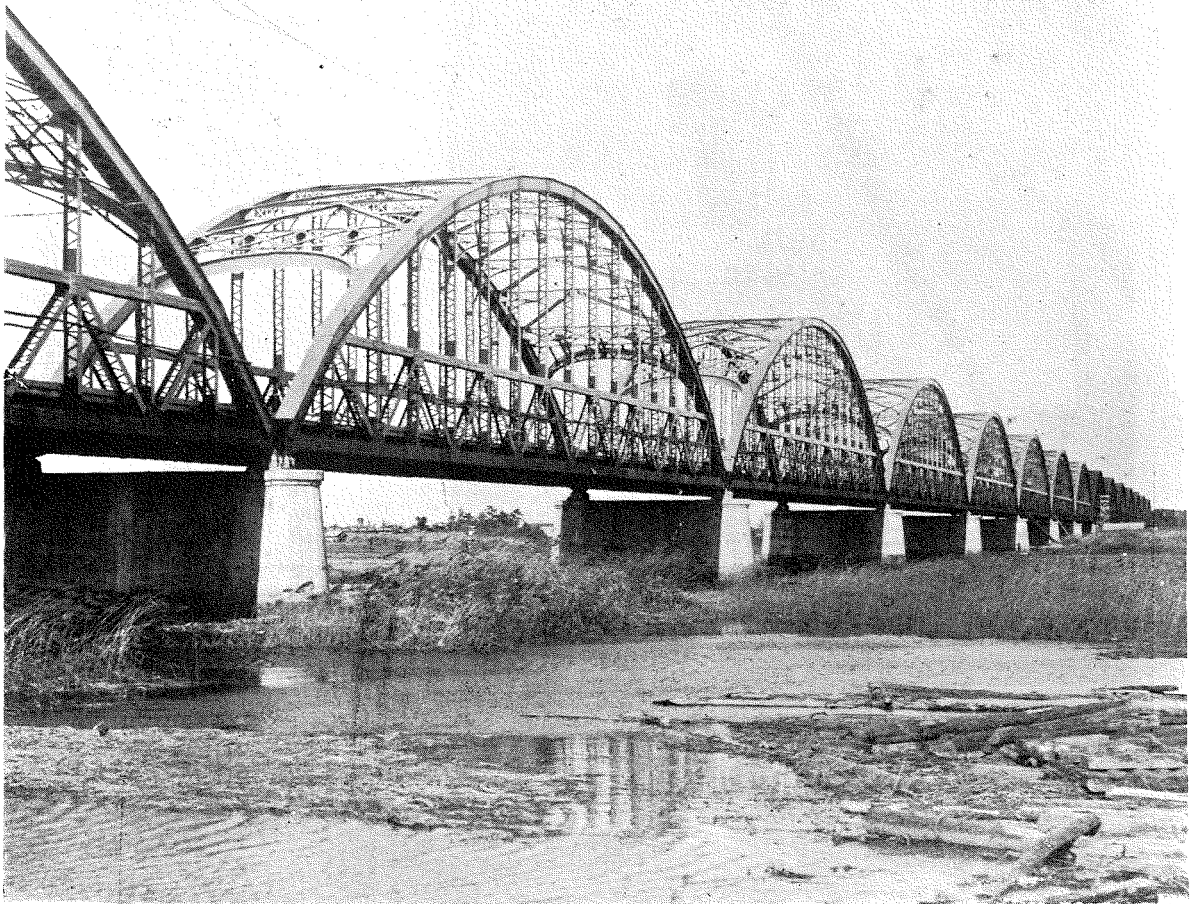
- 下部工事 株式會社間組
- 上部工事 大阪鐵工所
- 橋面鋪裝 日本鑛業株式會社
- 大日本アスファルト工業會社



(2) 竣工

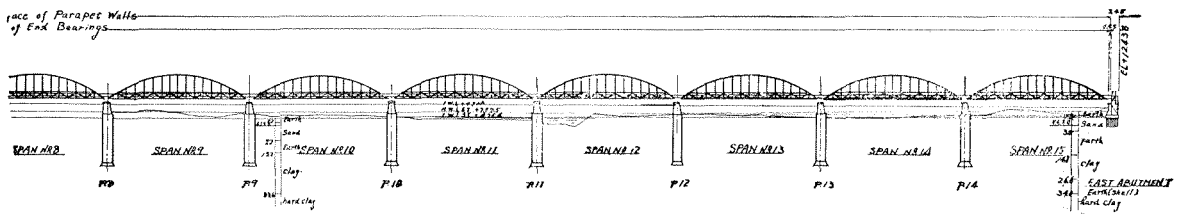
(3) 伊勢大

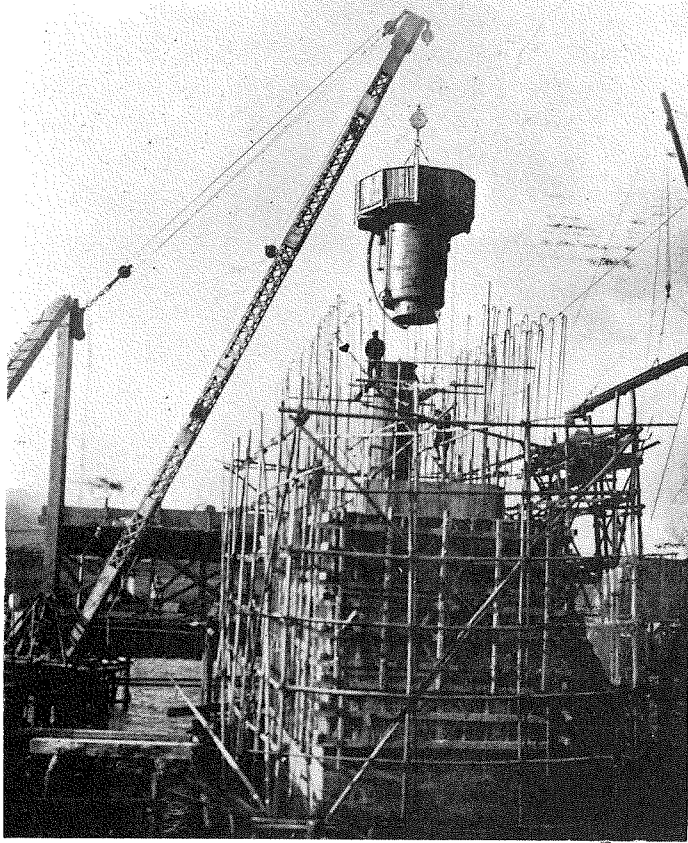




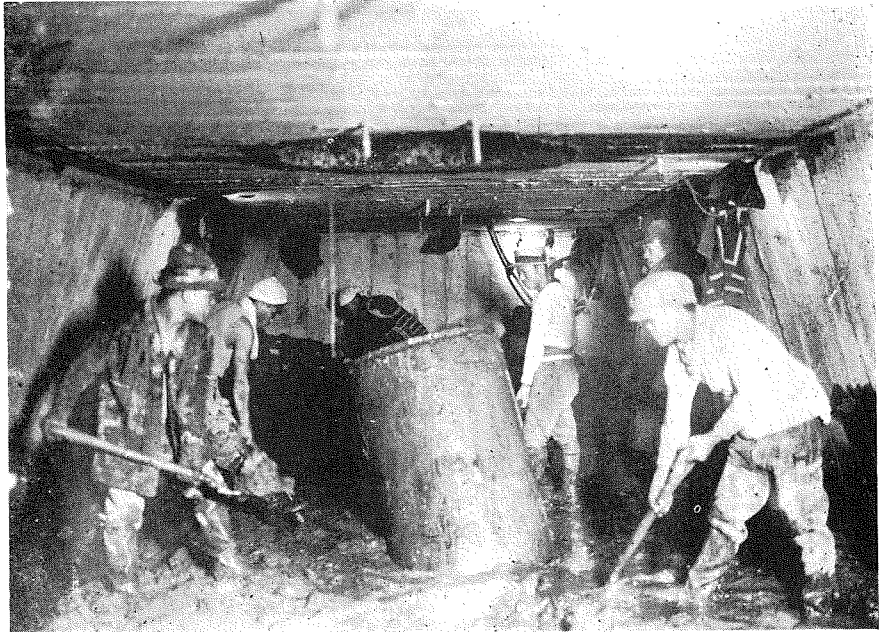
せ る 伊 勢 大 橋。

橋 側 面 圖。

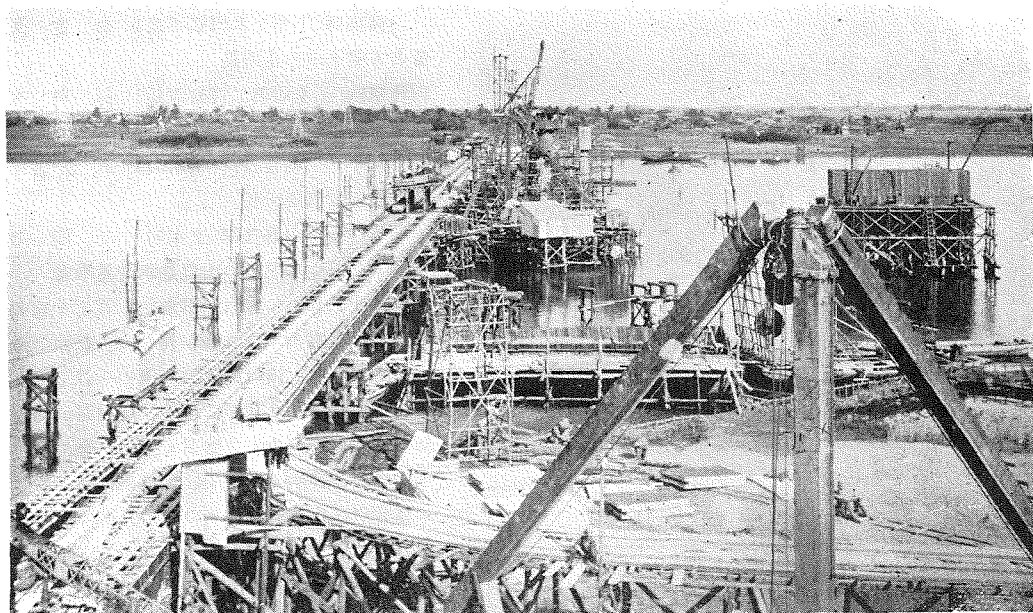




(4) 伊勢大橋、脚基礎潜函
懸装。



(5) 同上潜
函掘鑿作
業。



(6) 下部工事中の伊勢大橋。

